1995（平成7年）
第11号
3月1日発行

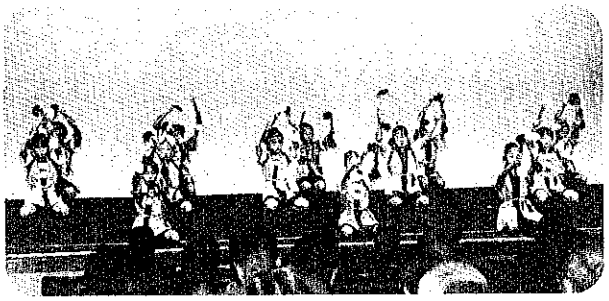
育連だより

編集・発行　川崎市青少年育成連盟
理事長　佐藤博康
事務局
〒211 川崎市中原区上小田中1313-1
エポックなかはら5階
電話 044-733-3951
印刷　西桜印刷株式会社

川崎市子ども会連盟　ボーイスカウト川崎地区協議会　**川崎市青少年育成連盟**　ガールスカウト川崎市連絡会　川崎海洋少年団

交流、ふれあい、家族、発見

大都市子ども会の課題
第31回 指定都市子ども会 育成研究協議会開催



大都市の子ども会がかかえる問題点は何か、どんな工夫が必要か。

情報交換、研究協議、団体交流を目指した指定都市子ども会育成研究協議会が11月26・27日、中原市民館を主会場にして開催された。

多数の各都市代表を迎え、四〇〇名余の参加者が熱心な協議を展開した。厳しい討議が続く中にも終止打ちとけた和やかな雰囲気に包まれ、盛会裡に大会の幕を閉じた。歓迎の「宮前区子連・銭太鼓の音もはずみ、すばらしい大会であった。

（第四部会の提案者が神戸市子ども会連合会の阪神大震災被害に対し心より見舞を申し上げます。）

部会のテーマと提言者

①少人数の子ども会対策　（京都）
②単位子ども会運営と問題点　（大阪）
③単位子ども会の安全教育　（札幌）
④ジュニアリーダーの養成　（神戸）

〝小さな議員さん〟
市会議場で大活躍

川崎市制70周年を記念して去る10月31日、市議会本会議場で「川崎子ども議会」が開かれた。学校や子ども会から選ばれた〝小さな議員さん〟たちが勢ぞろいした。

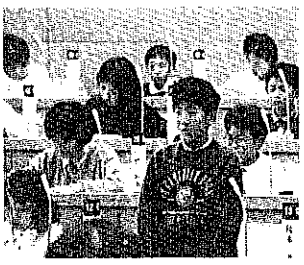
午前中は小学生、午後は中学生が「市長さんに質問」「私の希望や意見」などを発表した。

地域や学校での生活体験から出された意見は、鋭い観察力と洞察力にあふれ、子どもたちの顔は輝いていた。

川崎市の将来を考えた希望や意見に、市長さんや局長さんはうなずいたり感心したり、やさしく分かりやすく答えていた。

子どもの頃から、ふるさと川崎市の行政に感心を持ち、住みよい町づくりを考え、行動できる子であって欲しいという市当局の願いは、小さな議員さんたちに素直にとけこんでいったようだ。

青少年団体が「学校や行政と力を合わせて次の世代を担う子どもたち」の育成に努めるという大事な場面であった。今後もこの企画を続けて欲しいと思う。



議席に座ってみて

中原区子連　館島　登

ぼくは最初「子ども議会」というのが、何だかよく分かりませんでした。でも、何回か練習会に出るうちに、少しずつ、何をやるのか、どういうことを話し合うのかが分かってきました。

日が近づいて、発表する人を決める集まりに出ると、皆が真剣なので怖くなってきました。

本番の時は、身体中全部きんちょうしていました。変なようですが、自分がしゃべらない分、きんちょうが高まってしまったようです。

あの議場で、しょっちゅう話し合いをしている議員さん達は、頭がいいだけじゃなくて、勇気や精神力も必要なんだなと思いました。

議場はとても広くて、びしっとしたふんいきがとてもかっこ良く見えて、自分がそこに居るっていう事が、すごく大それたことのように感じました。

その中でさらに、自分よりはるかに偉い議長さんに向かって、いろいろなことを頼んだり申し立てたりする人を見ていると、「将来あの人達はまたここに、正式な議員として来るんじゃあないだろうか」とか、「本当に同じ学年なんだろうか」など、余計なことを考えたりしました。

今は、終ってホッとしています。けれども、あの時のことは鮮明に頭に残っています。

もう一度あそこで自分の意見を言ってみたいと思っています。

貴重な経験ができました。すいせんしてくださった役員の方々、ありがとうございました。

阪神大震災と若者たちのボランティア活動

この度の阪神大震災で身近な人を失い、一瞬のうちに家財を奪われ、人生が突然暗転した方々の心情は察するに余りあります。被災者の方々に心からお見舞い申し上げます。

さて、混乱の極に陥った災害現場で、今回ほど、ボランティアの力が再認識されたことはなかったといいます。中でも若者たちの活躍がすばらしく、自治体の手の及ばないところで、また、住民の方々と共に力を合わせ、家屋の崩壊で生き埋めになった人々の人命救助、救援物資の仕分け・運搬・配給。避難場所でのお年寄りの介護など、避難生活者の不安と不満を和らげ心の支えになっている若いボランティアの方々に頭のさがる思いがいたします。

この活動を通して一人ひとりの人間のかけがえのなさや人間として共に生き、共に協力して生活することの大切さを肌で感じたと思います。そして、「人に役立つ」ことのよろこびの中でいつもと違った自分をみつけたと思います。

青少年の意識調査などによると現代の青少年は自分の生活中心で社会参加の意識も経験も少ないといわれます。事実、現在ボランティアで活動中のものはわずか五％の低調さとか。

しかし、一方、自分の心にふれた響き合ったことに対して熱心に関わるともいわれます。図らずもこの震災は若者に意識の変容をもたらし、参加の直接的なきっかけを作ったようです。

これを契機に若者のボランティア活動が大きく広がり社会に根づいていくよう期待したいものです。

ボランティアの芽は家庭からといいます。この機会にぜひ家族で話題にし話し合ってください。

（事務局記）

五三団　スカウト

ガンバレ神戸！
四団体で義援活動展開

兵庫県南部地震の大災害に際し子ども会、ボーイスカウト、ガールスカウト、海洋少年団では、それぞれの団体の方針に従って義援金の募金活動を展開した。

子ども達や父母、一般市民の心あたたまる協力をいただいたが、義援金は、団体や市民の心と共に関係機関を通じて被災地におくられた。ご協力に感謝いたします。被災地が一日も早く復興されるよう願っております。

なげて、跳んで、はねて

ガールスカウト、シニアの集い

去る11月23日(日)、麻生小学校体育館で行なわれたシニアの集い。今年はスカウトの希望でバスケットボールになりました。参加人数は少なかったけれど、終ってみれば皆汗だくだく…。楽しかったね、又来年もとの話し合いました。

「スポーツで大切なのはチームワーク。メンバーは初めて合う人ばかりだけれど力を合わせてプレーしました」とはスカウトの話。

川崎市社会功労賞受賞　川子連連盟長　中島忠三氏

去る十一月三日、川崎市子ども会連盟連盟長の中島忠三氏は、平成六年度川崎市社会功労賞を受賞された。

永年にわたり地域に根づいた子ども会活動の充実発展に努め、卓越した識見と情熱をもって青少年健全育成に大きな役割を果たすとともに、地域の文化・スポーツの振興に尽くした功績が高く評価された。さらに青少年育成連盟副理事長として四団体の交流と連帯を図り、本市の地域青少年団体活動の推進に尽力されている。氏の受賞をお祝いし、育成連盟の発展を期したい。

ボーイスカウト　ニューイヤーパーティー

恒例の新年の集いを一月二十一日に開催。一二〇名余の指導者が一同に会し、ボーイスカウトの発展と健康を祈念した楽しい一日。(写真・坂谷地区委員長あいさつ)

ガールスカウト　クリスマスの集い

12月17日(土)。川崎市青少年の家。全市のガールスカウトが一堂に集まり楽しいひと時を過しました。

カリタス女子短期大学のペトロ神父さんをお招きして、子どもたちにお祝いをしていただきました。

コミックな手品、アコーディオンの演奏で大合唱、各団からのスタンツ(寸劇)、そしてサンタクロースからのプレゼントと、あっという間に二時間がたってしまいました。

さらに前進を　ボーイスカウト登録

ボーイスカウト日本連盟に登録するため、川崎地区協議会は去る二月十九日、中原市民館で登録事務を行なった。

最年少のビーバースカウトは、小学校に入る児前より入隊が可能なため多くのスカウトが入団した。また、新しく指導者になられる成人の方々も登録を完了。スカウト活動に大な力となり、川崎地区の拡大と前進、指導と奉仕を約した。さらに三月十八日、神奈川連盟に川崎地区全員を登録した。

四月一日から日本連盟のスカウトとしての活動が始まる。

「白梅隊」スカウト訓練

ボーイスカウト隊(中学生対象)は資質向上と班長育成をめざして三月三十一日より御所見森で訓練キャンプを行なう。一段と大きくなってきます。勇姿に拍手を!。

行って来ましたスキー合宿

海洋少年団

世間がクリスマスで騒がしい12月24日から27日、雑踏の川崎を後に一路、八ヶ岳へ。恒例のスキー合宿である。

訓練とレクをかねた行事だが楽しい合宿。

反省会の会話を紹介

□久しぶりに滑った感想。

涼…滑れなくなったのではと心配しましたが、一回練習してすぐにリフトに乗れるようになりました。

美…去年よりうまくなっていたと思います。

希…リフトはちょっと怖かったけど、すぐになれました。スキーは久しぶりなので、スピードを出し過ぎてしまいました。

□体がスキーを覚えていたんだね。今回初めてスキーをした人は?

聡…転んでばかり。恥ずかしかった。だけど、たくさん転んでいたから滑れるようになった。

瞳…スキーは少しできました。十回ぐらい転びました。

□スキーは転んでうまくなる。初めての団員も滑れるようになって本当によかった。

祥…雪が降ってきたとき、顔に当たって、とても目をあけていられなかった。

□レクリエーションでの思い出はどうかな。アストロハウスはどうでしたか。

智…望遠鏡で見た星がとてもきれい。何となく分かったのは、ペガサス座とアンドロメダ座だけ。

希…全員とても楽しい合宿でした。

□みんなけがもせず楽しい合宿ができました。来年もやりましょう。ごくろうさまでした。

家族みんなでボーイスカウト

川崎第49団　菅原賀子

私共が、子供をボーイスカウトに参加させようと決めたのは、小学校一年の四月でした。

幼稚園来の友達の勧めもありましたが、兄弟のいない我子に、年上、年下の子達と接する事で、縦の社会を経験させたかったのと、親の目がない場所での自立をして欲しかった事が一番の理由でした。

昔なら、めんどう見のいいガキ大将が居て町内中の子供を集めて遊び、その中で子供社会を体験し、思いやりやリーダーシップが育ったものですが、近年は放課後も習い事や学習塾で忙しい日々を過ごしている子や、家の中での遊びが好きな男の子が増えているのが現状です。外遊びをしていても、同じ年か、一つ、二つ違いで、どうしても社会を広げられそうにありません。

ビーバーで入団以来、大きなイベントの度に、ボーイ、シニアとの交流が、深く印象に残っているようです。お兄ちゃんへのあこがれが、その時だけであっても、一緒にゲームをしたり、食事をしたりする事で満たされ、思い出として残り、次は、自分が年下の子にしてあげるという形で引き継がれたら、それだけで、私共が、ボーイスカウトに入団させた目的は達成されたと言ってもいいと思っています。

川崎第49団　カブ隊　菅原圭太

ビーバーに入った時は、「家で遊びたいなぁ」と思ったけど、カブ隊になって、いろいろな遊びや理科の実験みたいな事をしたり、お父さんと一緒にキャンプもしました。上級のスカウトと隊集会の後も一緒に遊んだりできるようになりとても楽しいです。

子ども会らしい作品群

二月四日、五日の二日間、川崎体育館で『第28回子ども会作品展』が開かれました。

七区の代表作品、書道・三六五点、絵画・三二三点が出品され、慎重に審査が行われましたが、審査員(書道・絵画各三名)の先生方も選考には苦労されていました。学校の作品とは一味ちがった作品群に感心しながら、丁寧に審査が進みました。

書道では、〈低学年の課題はむずかしかったが、太く力強い作品が多く、すばらしい作品ばかりだ。〉絵画では〈色彩が豊かで、感情表現のすぐれた作品が多かった。〉という審査評をいただきました。

最優秀賞には次の作品が選ばれました。

絵画　岸　のどか(小一　野川)
書道　久保田裕子(中一　神明町)

(文化委員会)

編集後記

今号にも沢山の記事、原稿が寄せられました。各団体ともに活発な事業展開が強力に推進されていることの証明でもあります。「青成だより」もその一端を荷なっているものと推測しております。

なお、寄稿された原稿で今回掲載できなかった記事については、できるだけ次回に掲載するよう努めたいと存じますのでご容赦ください。

平成六年度、加盟四団体の活動に拍手を送るとともに平成七年度の一層の躍進を期待いたします。

(町田　叡)